

太田 吉浩 議員



Q 放置空き家の撤去 条例の制定は

A 先進自治体をしっかり
参考にしたい

点から取り組んでいる事例や方針は何か。また、放置されたままで危険な空き家は所有者への指導・勧告・命令、行政代執行での撤去まで含めた村独自の空き家管理条例を制定する考えはないか。

企画観光課長
現在も空き家を求める来庁者は絶えず、更なる空き家の情報収集と個別折衝を行ってきたい。他の自治体の事例も参考にしながら、特に若者の移住・定住に力を入れない。諸々の対策で空き家を減らしながら、村の活性化に努めたい。

環境対策課長
国においても空き家本体の対策を促進する法案整備の機運が高まっている。危険な特定空き家の調査、改善、撤去命

令ができるなど国が基本方針を示して頂ければ自治体としても対応しやすい。総務課長
現在、村では「南阿蘇生活安全条例」に基づいて対応している。各区長からの相談があれば、警察・消防の連名でもって所有者に改善をお願いしている。

Q 統合後の中学校、台湾への 修学旅行は実現できないか

A 進めることができれば、是非
やりたい

学校一覽なども用意されている。2年後に統合を控えた中学校の修学旅行に台湾をという提案の実現可能性はどうか。減少傾向にある村の子供達に、少数だからできる貴重な経験を村も積極的に支援して頂きたい。

教育長
村の3中学校の修学旅行は、白水と長陽が関西方面、久木野が沖繩に行っている。統合中学校の修学旅行は現在、準備委員会の教育課程部会において協議がなされている。予定では来年は3校合同で実施の話も出ている。外国との交流となると国際情勢や治安、予算の問題もあるが、ご提案頂いた台湾への修学旅行は前向きに協議して頂くよう、私からも教育課程部会にお願いしておこうと思っっている。

長野村長
放置空き家の管理条例は、先進自治体をしっかりと参考にしながら考えていきたい。村も毎年40名程度の人口減少が進んでいる。空き家を活用した定住促進も進めるよう検討したい。

太田議員

現在、熊本県も定期便就航を進める台湾。日本の統治時代も経験し、その当時のインフラや教育制度が台湾の近代化に貢献した歴史がある。特に多感な子供達にとって、国際交流と日本の歴史を学ぶ意味でも親日的な台湾との交流は修学旅行地に最適だと考える。台湾サイドでも、政府が修学旅行の受入れマニュアルを作成し、モデルコースや交流でき



いた台湾への修学旅行は前

